家庭部会

県研究主題 家族の一員として生活をよりよくしようと主体的に工夫する能力や実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫・改善

提案１　　提案者　織井　美雪（川崎地区）

＜研究主題＞ 子どもがかかわる　子どもがつくる　子どもが営む　よりよい生活 ～身近な消費生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てるために～

１　提案内容

学習指導要領では、「主体的に生活を工夫できる消費者をはぐくむ視点」が重視されている。持続可能な社会の構築など社会の変化に対応して、主体的に生きる消費者としての態度を育成する視点から、「D　身近な消費生活と環境」を設定している。内容は(1)「物や金銭の使い方と買い物」、(2)「環境に配慮した買い物の工夫」の2項目で構成されている。具体的には、子どもたちにとって身近な物の選び方や買い方、環境に配慮した物の活用などについて、実践的・体験的に学ぶことになっている。

２　テーマに迫るための手立て

（１）他教科との関連を図り、学びの必然性を生み出す

子どもたちは総合的な学習の時間を使って「川っ子米」を育ててきた。収穫をして、「おにぎりパーティーを開きたい！」という声が上がった。これまでの学習も教室に掲示してあるイメージマップをもとに、題材と題材のつながりを確認しながら授業を進めてきた。今回も子どもたちから「おにぎりの中に入れる具をグループで相談して、自分達で買いに行きたい」「だからお金や買い物の島（まとまり）とつなげようよ」という提案があった。子どもたちが教材相互の関連を意識するようになっていることが伝わった。

（２）グループワークによる問題解決的な学習を取り入れる

「グループワークの充実から全体意見交流への発展」という個人テーマを意識しながら日々の授業づくりに取り組んでいる。本題材でも２時間目にグループワークを取り入れ、友達と意見交流をしながら課題を解決することを通して、よりよい買い物をするためには『品質』と『値段』をよく考えて選択する大切さを理解してほしいと願った。

そこで、「ドラえもんとのび太の家族」にふさわしい炊飯器を選ぶことを課題とした。取り上げた理由は次の６つである。

・手軽な買い物ではないため、情報をきちんと集め、情報を整理して判断する必要がある。
・予算を考えて選択することができる。
・品質や機能を考えて選択することができる。
・好みの色やデザインにこだわることができる。
・環境に配慮した買い物について考えることができる
・米を炊く学習をしたため、一人一食分のご飯の量が分かっている

（３）生活の中で生きてはたらく学びをつくる

物の選び方や買い方をよく考えることは、物を作っている人々の労力や地球の資源、エネ

ルギーを大切にすることにもつながる。物を長く大切に活用したり、無駄なく使い切ったりする子どもの姿をめざしたい。本題材を一貫して「わが家ウォッチング」や「家庭実践」に力を入れ、子どもたちの生活の中で生きてはたらく学びを展開した。

3　協議内容

（1）「新学習指導要領に沿った年間指導計画・評価計画の作成について」

①各地区の状況

・教科書を基本に年間指導計画を作成している

・市独自につくって全市で活用している

・研究会で作成し、全市に提案している

・子どもの思いに即して作っているので毎年見直しをしている。臨機応変に組んでいると、2年間での学びに落ちがでてしまうと困るのでしっかり学校で見ていく必要がある。

②質問

今回は子ども達の声でこの題材となったが、指導計画とのすり合わせが難しいこともあるのではないか。→子どもたちが言うことはだいたい予想しているので、模造紙に書き込んで行くときには配置を考えながら島でまとめる。イメージマップを見ると、自分たちの発言がつながっていることを目で見て実感できる。1、2 年生でジャムつくった、4 年生で沸騰を勉強した等、家庭科につながっていることもわかる。

③その他

・どのような子どもになってほしいか→評価計画→指導計画の順に考えるとよい。

・自分がやりたいと思える授業をつくっていくことが大事。地域性や子どもの考え等、実態に合わせてつくっている 年間指導計画になっているのがよい。

・年間指導計画と評価計画を作るのに年間でのストーリー性をもってというのは難しい。

・いかに子どもにとって切実感のある題材を取り上げていくか。子どもたちが選び考えを選択していかれる工夫が必要。他教科との関連も考えて年間指導計画をつくりたい。

・子どもと一緒に話し合って、行事を柱に年間指導計画をたてている。ストーリー性のあるものをつくっている。教師がどこで何を評価するか考えていなければならない。

（2）「言語活動の充実について」

・ワークシートの工夫をすることでグループワークで決まっても個人の考えを尊重できる。

・たくさん書かせると何をみていいかわからなくなってしまう。精選して書かせたい。

・とりあえず書いておいてではなく、どんな意味があるのか伝える。

・実習後のレポートも大事。

・書くことは、家庭科以外でも勉強しているので、国語の評価にならないように。

・報告会がただの発表会とならないように。また、発表会だらけにならないように。

・互いにアドバイスをし合う授業で子どもたちも変容し、新たにやってみよう、となる。

4　まとめ（指導・助言）

・このように教材研究して、消費者生活としての指導をすることが大切なことだと感じた。

・年間計画は子どもの考えだけでつくっているわけではない。教師は他教科との関連や中学への見通しをもち、各学校独自の年間計画を立てて行くことが大事。

・ワークシートを充実させることで言語活動の力も育つ。ワークシートの中で自分の思考の変容がわかるような物をつくれるといい。

・評価については、もっとクリアにスマートにしていく必要がある。言語活動の充実もわかるが、最後は実践報告会という形にしなくてもよい。互いに掲示して見合うなどもできるだろう。

提案２　　提案者　村上　春香（中地区）

〈研究主題〉
児童一人ひとりが家族の一員として生活を工夫し、実践する態度を育成する指導法の工夫

１　提案内容

今年度も昨年度に引き続き、食生活について目を向けて実践を行った。新学習指導要領では、食生活に関して「日常の食事と調理の基礎」という項目を設定している。指導事項①「食事の役割」②「栄養を考えた食事」③「調理の基礎」を踏まえ、５年生の題材「元気な毎日と食べ物」を通して、子どもたちに生活に必要な知識や技能を身に付けて実践力を高めてほしいという願いのもとに実践を重ねてきた。テーマにせまる手立てと工夫としては次の通りである。

（1）　食事について考える。

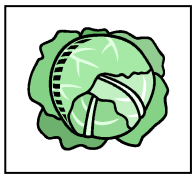
子どもたちが自分の食事を見つめ直し、栄養バランスの大切さを理解するために５大栄養素の働きについて学習した。栄養素をまんべんなく摂取することの大切さを、バランスのよい給食メニューを活用して考えさせたり、共通体験であるキャンプで作ったカレーライスから考えさせたりした。さらに食事調べを通して、自分の食事を振り返り、今後にいかそうとする態度を育てた。

（2）　指導計画等の工夫

子どもたちが共通の目的で学習が進められるような指導計画を設定した。５年生ではキャンプでのカレーライスづくり、６年生では中学校との連携を考えて１食分の学習にお弁当作りを取り入れているところも多い。また５大栄養素の学習では、栄養素の働きと食品の分類を１時間特設した。

（3）　教材・教具、ワークシートの工夫

５大栄養素や栄養バランスを理解させるために、視覚的にとらえて理解しやすい教材・教具を作った。食品に含まれている５大栄養素が視覚的にわかりやすいように、５色の５角形で表した。



（黄）炭水化物（白）脂質（赤)たんぱく質(ピンク)無機質(緑)ビタミン

（4）　学校栄養職員との連携

中学校での学習につながるように、５大栄養素の基礎的事項を、専門的な知識を持つ学校栄養職員との連携を図りＴ・Ｔで学習を進めた。食品の栄養素の分類や、栄養面・衛生面を中心に教えていただいた。教材やワークシートも作っていただいた。

（5）　家庭との協力、連携

「学級だより」や「家庭科だより」等で、家庭科学習の様子を家庭に知らせたり、家の人

へのインタビュー等を取り入れたりして、家庭との連携を図るように努めた。子どもたちもインタビューをワークシートに書き込むことで、次の活動への意欲を高めることができた。

2　協議内容

（1）　テーマにせまる手立てと工夫について

・食物の教具の中の栄養素は、学校栄養職員が作ってくれた。５角形にしたのは、５大栄養素を意識してだと思う。100ｇ中に含まれる栄養素を細かく分類してくれた。含まれる分量によって大きさを変えた。この教具は効果的であったと思う。

・学校栄養職員が授業に参加してくれることで、栄養に対する専門的な知識や興味・関心が高まった。分類が難しい食品も、学校栄養職員の説明できちんと分類できた。

・中学校とのつながりを意識して教具を作成するとよい。中学校では分量計算もするので、今回のような教具は中学校での学習につながる。

・小学校で学習したことを中学校でも繰り返して学習する。小学校から中学校への学習内容の流れを教師が把握しておくことが大切である。ここで学習したことが、どうつながるのかを知る必要がある。

（2）　年間指導計画について

・２年間の中で、題材をどう配置するのかを学校行事や他教科との関連も考えながら、それぞれの学校で年間指導計画を作っていくことが望ましい。

・子どもたちの思いや考えを大切にしながら、ストーリー性のある年間指導計画を作る。その際には、どこでどのように評価するかの評価計画も一緒に考えていく。

・それぞれの地域で年間指導計画の立て方も異なるが、児童実態に応じて工夫していなかくてはいけない。

・まずは教師が目的意識を持って、授業を組み立てていくことが大切である。

（3　)言語活動について

・実感を伴った活動から言語活動が生まれてくる。

・言語活動が成り立つような授業計画を立てていく。自分の思いが発言でき、友達の思いもきちんと聞けるような場の設定は大切である。

・グループ学習で、話し合いの時間を十分に設けることは難しい。授業の中のどの部分できちんと話し合わせるか、どのように話し合わせるかを教師がきちんと計画しておかなくてはいけない。

3　まとめ

・小学校と中学校での学習の全体像をとらえ，その学年で定着すべき資質・能力について教師が把握する。その上で，年間指導計画を作成し題材を考えていくことが必要である。

・子ども自らが課題を見付け，意欲的に取り組むことができる授業づくりを考えていくとともに，授業の振り返りも行っていくことが次への意欲につながる。

・小学校では、まずは３つの食品群(グループ)に分けられることが大切である。それを５つの栄養素に分けていき、中学校ではそれがさらに細分化する。それぞれの学年の学習をきちんと理解させることが大切である。中学校へのつながりを知る必要がある。